

令和6年1月26日

保護者様

本宮市立和田小学校長 佐藤 憲博

学校評価アンケートの結果と来年度の方向性について

大寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝いたします。

さて、昨年末には、学校評価アンケートへご協力いただきまして、誠にありがとうございました。集計が終わりましたので、その結果をお知らせいたします。

アンケートの結果につきましては、下記の通り、来年度の教育活動に生かすべく努力して参ります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

記

アンケート結果を基にした来年度の方向性について

1 「自分の考えを持ち、伝え合う」について

児童への質問2「読書（朝の読書タイムや家）では、いろいろな本を読もうとしている。」の評価が昨年度に引き続きそれほど高くありません。改めて「読書の意義や効果」を児童一人一人に丁寧に説明し、児童が主体的に読書に親しむ環境づくりを進めていきます。

授業においては、ICT機器の活用や自分の考えを書く時間の確保、個別指導の充実を行うことなどを通して、伝え合う力を引き続き育成していきます。

保護者への質問3「授業参観や行事などを通して感じられることとして、子どもたちの参加態度がよい。」の評価がそれほど高くありません。児童一人一人が主体的に学習に取り組める授業づくりを推進すると共に、「あいさつや返事、言葉づかい」や「話を聞くときの姿勢・心構え」について全学年が同一歩調で指導できるよう体制を再度確認していきます。

2 「相手のことを考え、思いやりのある行動をする」について

児童への質問4「あいさつや「はい」という返事、「です」「ます」をつけるなど正しい言葉づかいをすることができている。」、保護者への質問4「授業参観や行事などを通して感じられることとして、教師や友だちに対する言葉づかいがよい。」については、児童の自己評価と保護者の捉え方に差違が見られます。どのようなあいさつや返事、言葉づかいが適切なのか、日常的な指導をすると共に、ご家庭とも共通認識をもとにはたらきかけることができるように、学年だよりや学校だよりを中心に情報発信をしていきます。

児童への質問6「先生方は自分の悩みや相談に答えて、すぐに行動してくれる。」、保護者への質問7、「学級の子どもたちの人間関係が良好である。」、質問8「学校は、いじめ見逃しゼロを目指し、保護者と協力し（密に連絡を取るなど）、組織的に対応をしている。」については、100%「あてはまる」の評価でありたいと考えています。そのために来年度も引き続き「おもいやりの木」の実践、月1回の生活アンケートの実施、情報モラル教育の実施、異学年交流の充実等を通してよりよい学級・学校づくりを進めていきます。また、道徳教育・学級活動も充実させていきます。特に学級活動では、折り合いをつける話し合いを年3回以上行うようにします。さらに、「いじめを許さない

メッセージの発信『私の宣言』の振り返りと宣言の見直しを定期的に行うと共に、教育相談の充実のために、QUテストとの連携、「SOSの出し方に関する教育の推進」にも取り組みます。

3 「めあてに向かって体をきたえる」について

児童への質問8と10の運動面については、今回掲載したグラフでは示されていませんが、高学年になるほど意欲的ではない傾向がありました。来年度も、各種記録会での達成目標を設け（例：水泳記録会にて低学年は5m、中学年15m、高学年25m）努力させると共に、生活リズムチェックの実施、栄養技師や歯科衛生士によるTT指導も年2回以上実施しながら、心身ともに健康を増進する取組をしていきます。

4 「社会に開かれた教育課程 キャリア教育の充実とコミュニティースクールの機能の活用」について

積極的な取組がなされていますが、結果からは、地域との連携の「児童一人一人に郷土を大切にする心を育み、地域の一員として地域を支えていく自覚を促していく。」という「意義」について、児童の理解、保護者へ趣旨の周知が十分になされていないことが明らかになりました。各種活動の際には、児童にもねらいを明確に理解させると共に、保護者の皆様や地域住民の方々に取組の内容をお知らせする情報発信にも力を入れていきます。

最後に、全体を通して、保護者の「わからない」という回答が目立ちました。学校の取組をご理解いただき、関心をもっていただけるよう、情報発信の内容にも工夫をしていきたいと考えています。

学校運営協議会委員の意見（学校関係者評価）

【令和6年1月17日実施】

1 「自分の考えを持ち、伝え合う」について

- 読書については、家庭でも取り組めるよう情報提供や啓発が必要であろう。
- 保護者が授業を見る機会が少ない。学校の普段の姿も見たい。

2 「相手のことを考え、思いやりのある行動をする」について

- スクールカウンセラーを活用した4～6年生の児童全員に対するカウンセリングは少人数の学校ならではのよい取組である。
- 少人数でも人間関係の課題が出てくることがよく分かった。学校にいる時間だけの指導ではなく家庭環境も関連するので家庭との協力が必要である。

3 「めあてに向かって体をきたえる」について

- 特にない。

4 「社会に開かれた教育課程 キャリア教育の充実とコミュニティースクールの機能の活用」について

- 和田、白沢、本宮と職業の選択肢を広げたキャリア教育を進めてほしい。

1 「自分の考えを持ち、伝え合う」について

児童へのアンケート結果

質問 1

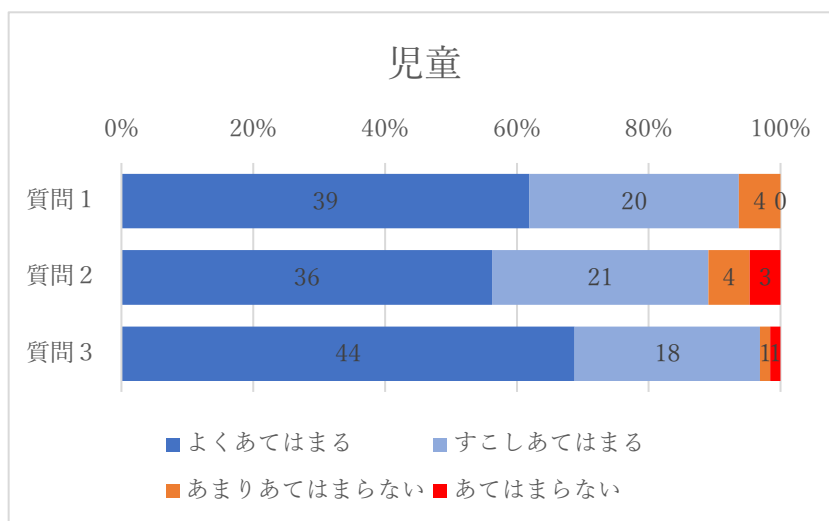
授業では、自分の考えを書いたり、発表したりすることをがんばろうとしている。

質問 2

読書（朝の読書タイムや家）では、いろいろな本を読もうとしている。

質問 3

学期ごとの定着テストに向けて、自分から勉強している。



保護者へのアンケート結果

質問 1

学校は、子どもの学力が向上するような取組を行っている。

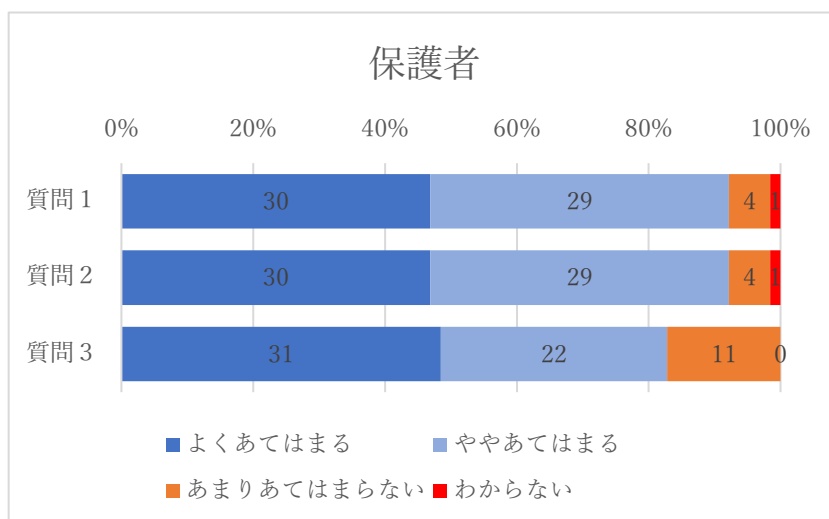
（授業の充実・ドリルや問題集への取組・読書の取組）

質問 2

学校は、学力向上のために適切な家庭学習（宿題）を出している。

質問 3

授業参観や行事などを通して感じられることとして、子どもたちの参加態度がよい。



教職員へのアンケート結果から成果（○）と課題（△）

- 各教科で学び合う活動を取り入れ、学習内容を理解したり、深めたりすることができた。
- 国語や道徳の授業を中心にペアで教材を読んで話し合わせるなど、言語活動を充実することができた。
- 教科書の問題に加え、キュービナに取り組みせ、基本的な計算問題など習得させることができた。
- 音楽科・家庭科でタブレット端末で作成した課題に取り組みせ、電子黒板を使って全体で共有したり、楽譜やメロディなど提示し、視覚的な支援をしたりするなど I C T を効果的に活用することができた。
- マネジメントシートを活用し、家庭学習の習慣を継続して呼びかけた。
- 振り返りの 5 つのポイントを意識させて振り返りを積み重ねてきた。振り返りの内容は少しずつ深まってきた。
- I C T 活用場面を増やしたことで活動の幅が広がった。
- △ 単元テスト 80 点以上の児童の割合が国語 75%、算数 69% であり、基礎・基本の定着のための取組を工夫する必要がある。
- △ 読書指導については、毎週月曜日に貸出、月曜と木曜に読書タイムを設け、朝の読み聞かせ、ブックトーク、ブックビンゴなどの活動を工夫したが、読書の取組には個人差があり多読賞は未達成であった。特に高学年の児童の主体的に読書に向かう姿勢を育む工夫をしていく。
- △ 「時間を守る」「身の周りを整理整頓する」「話を聞くときの姿勢・心構え」「学習のサイクル（授業の内容を反復させ、定着を図る）の定着」、当たり前の事が当たり前にできることを徹底したい。

2「相手のことを考え、思いやりのある行動をする」について

児童へのアンケート結果

質問4

あいさつや「はい」という返事、「です」「ます」をつけるなど正しい言葉づかいをすることができている。

質問5

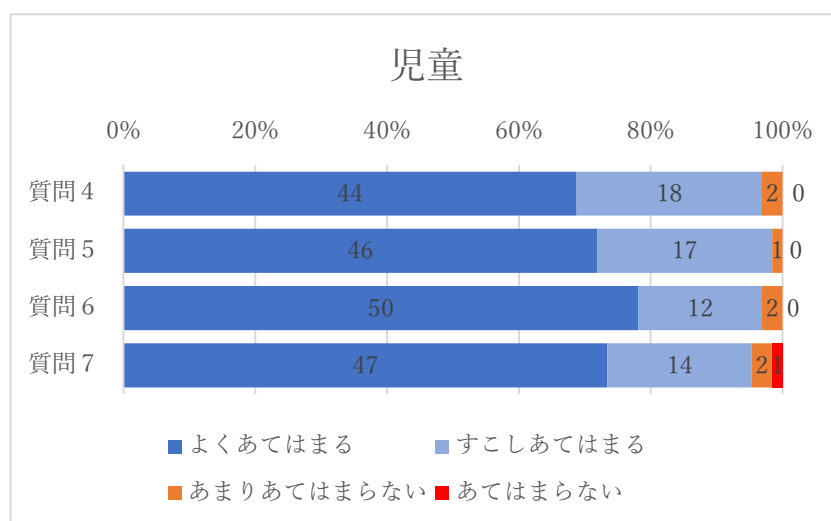
縦割り班では、違う学年の友達と仲よく活動している。

質問6

先生方は自分の悩みや相談に答えて、すぐに行動してくれる。

質問7

学級の友達と、仲よく助け合って活動している。



保護者へのアンケート結果

質問4

授業参観や行事などを通して感じられることとして、教師や友だちに対する言葉づかいがよい。

質問5

学校や家庭は、子どもたちが時と場に応じたあいさつができるように声をかけている。

質問6

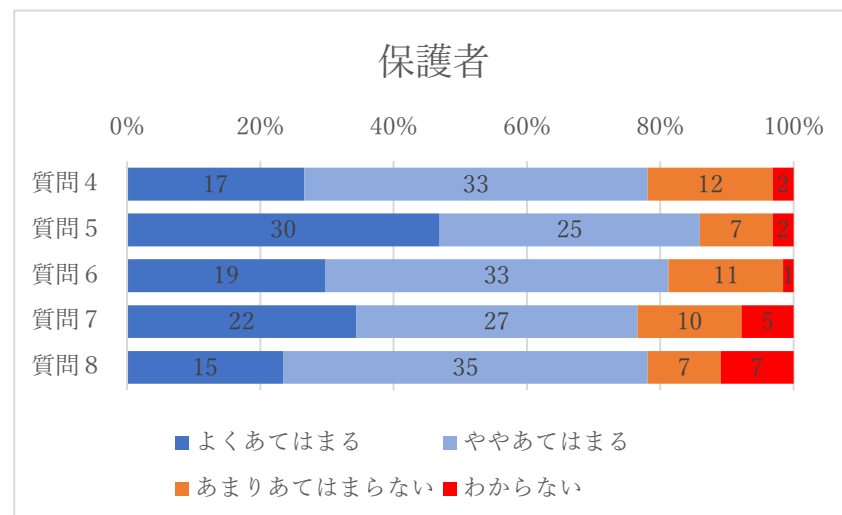
子どもたちは、時と場に応じたあいさつができる。

質問7

学級の子どもたちの人間関係が良好である。

質問8

学校は、いじめ見逃しゼロを目指し、保護者と協力し（密に連絡を取るなど）、組織的に対応をしている。



教職員へのアンケート結果から成果（○）と課題（△）

- 授業参観日に道徳の授業を行い、家庭との連携ができた。
- 清掃の縦割り班活動、体育の授業、異学年との交流授業等充実させることができた。
- 学級の児童への十分な称賛ができた。認める声かけを多くする、異学年の関わりを大事にするような、支持的な学級風土ができてきた。
- 児童のよいところを見つけてなるべく一人一人に称賛の言葉をかけるよう心がけた。
- 道徳や学活の時間に情報モラルの指導を行った。
- 月初めの生活アンケートから、困り事のある児童と教育相談を実施。保護者にも連絡し、個別支援を徹底することができた。
- △ 来年度は教育相談の質のさらなる向上のため、Q Uテスト（年2回）と教育相談を関連づけた時期に実施していく。
- △ 児童の暴言や暴力などの悪質な言動がなかなかなくなる。道徳教育の充実と取組に工夫をしていくと共に、家庭と連携できるように、情報発信も適宜行っていく。
- △ 教育活動のあらゆる場面で、「道徳的実践力」を高める言葉かけ、仕掛けが必要である。「いじめを許さないメッセージの発信『私の宣言』」を決めるだけでなく、振り返りと宣言の見直しは、意図的・計画的に実施することで効果が期待できる。「特別の授業道徳」の「意義とねらい」を教師側だけでなく、児童にも理解させる取組が必要と考える。
- △ いじめの早期発見、迅速で適切な対応に課題があった。校内の指導体制を改めて確認し、保護者との連携、市教委などの関係機関との連携、S C等を活用した心のケアにも適切に取り組んでいく。

3 「めあてに向かって体をきたえる」について

児童へのアンケート結果

質問 8

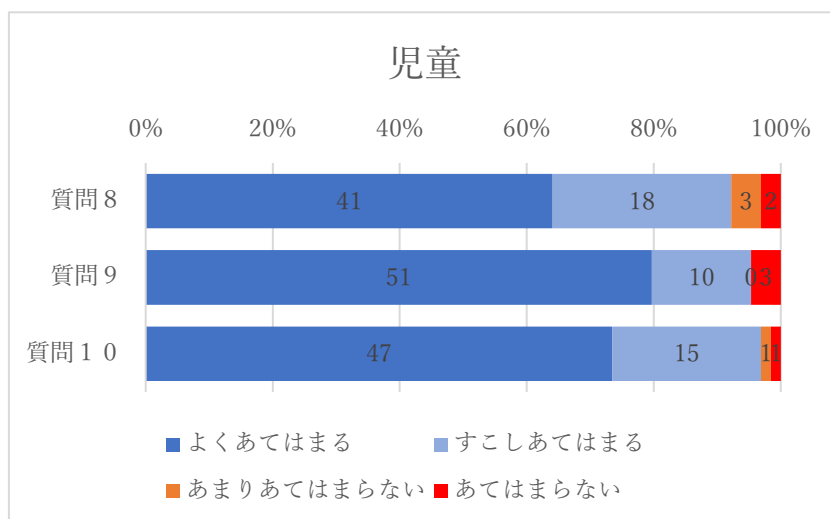
ランランタイムではがんばって走り、マラソンカードに記録している。

質問 9

給食では、好き嫌いなく食べることができるように努力している。

質問 10

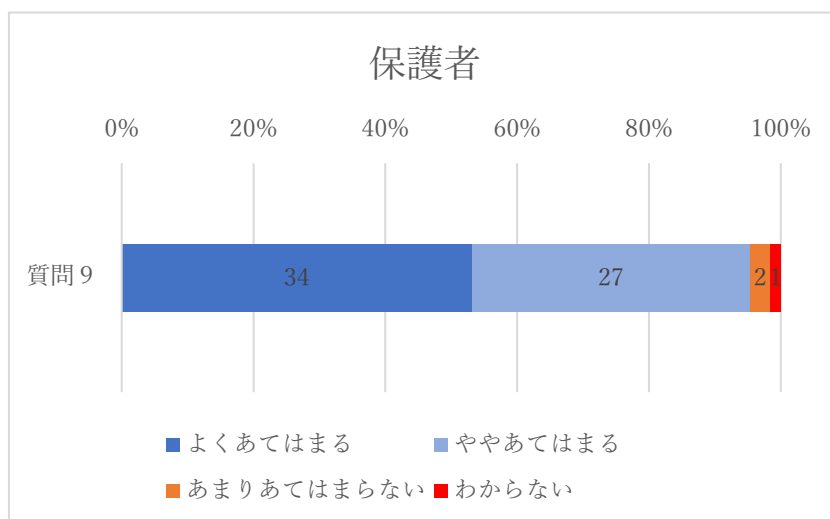
体力を高めるため、運動身体づくりプログラムにがんばって取り組んでいる。



保護者へのアンケート結果

質問 9

学校は、子どもたちの体力を向上させたり情操を豊かにしたりするために日常的に取り組んでいる。(ランランタイム・運動身体づくりプログラム・フルマラソンカード・なわとびカード・陸上・水泳・駅伝 など)



教職員へのアンケート結果から成果 (○) と課題 (△)

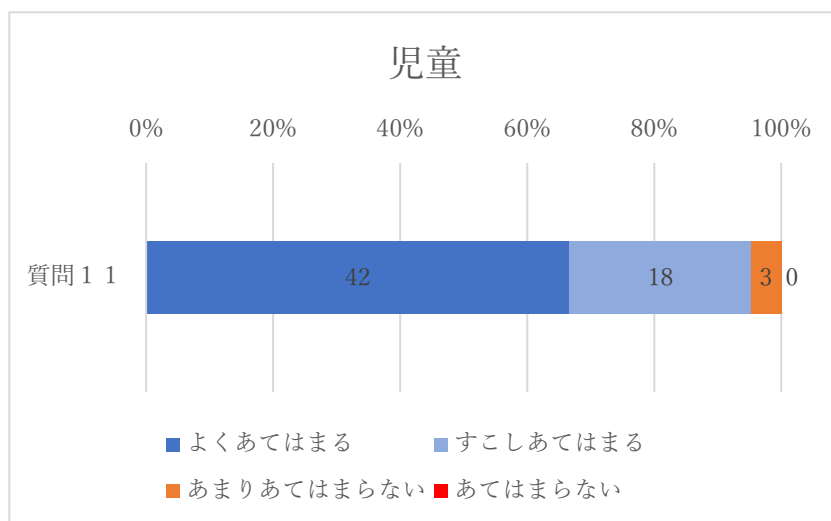
- マネジメントシートを活用して、午後 9 時までの就寝を意識付けられ、改善が見られた。
- 睡眠や朝食摂取への声かけができた。
- 業間はなるべく児童と一緒に校庭を走り、声かけを行った。
- 栄養技師や歯科衛生士との T T 授業を全学年 2 回以上実施できた。
- 年間を通して体力向上に努めることができた。
- 給食時に声掛けをすると、少しでも食べようとする児童が多いことが分かったので、無理のない範囲で促していきたい。
- △ それぞれの課題、目標に向かって努力させることができたが、学校の数値目標は十分に達成できていない。
- △ 就寝・メディア使用・う歯治療率が 80% を下回っている。
- △ 睡眠習慣、メディアの使用について課題があったが、大きな改善が見られなかった。個別懇談にて全家庭に直接呼びかけをした。メディア使用、特にゲームの習慣には大きな課題がある。
- △ 雨天時の業間運動に動画を活用して、音楽に合わせたエクササイズなどを取り入れてはどうか。
- △ 運動に親しむ「環境・仕掛け」作りが急務と考える。特に思春期を迎えた高学年の児童に対して「やらされ感」を払拭する工夫が必要である。

4「社会に開かれた教育課程 キャリア教育の充実とコミュニティースクールの機能の活用」について

児童へのアンケート結果

質問 11

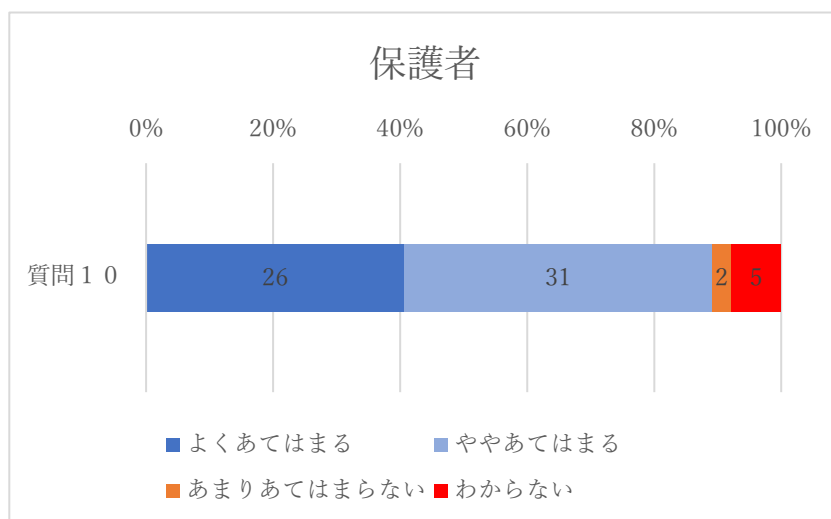
地域のことを学習したり、地域行事に参加したりすることが楽しい。



保護者へのアンケート結果

質問 10

学校は、地域との連携によく取り組んでいる。(地域を理解したり、地域の方に学んだりする機会・地域団体等との交流・学校ホームページ、学校だよりによる発信 など)



教職員へのアンケート結果から成果(○)と課題(△)

- 少人数ながら、工夫して鼓笛パレードに参加することができた。
- 学習発表会に向けての学習やまとめの活動の中で、児童も教師も地域の良さに目を向けることができた。
- 非常に積極的に取り組まれている。地域と連携した体験的な授業が多くてよかった。
- 幼稚園、中学校との積極的な連携ができた。
- 総合的な学習の時間に、本宮市社会福祉協議会の方を講師にお招きし、福祉学習を実施した。
- 今年度は、高齢者施設「あだたら憩の家」での交流会を実施した。地域とのつながりを継続していけると良いと思う。
- △ 社会科や総合的な学習の時間の充実。CSでの話し合い(人材活用・見学場所について)を取り入れていきたい。
- △ 体験のみに終始しないよう、「まとめ、振り返り、発信」もセットで計画が必要である。特に保護者に取組の内容をお知らせする発信にも力を入れていく。
- △ キャリア教育や郷土を素材とした学習の「ねらいや意義」を教師と児童が相互に理解されている状況での活動を期待する。何のための郷土学習なのかを明確にしていく。